

《研究主題を大切にいきましょう》

みなさん、本校の研究主題は何でしょう。そう、「学びをたのしみ、自らを高め続ける児童生徒の育成」ですね。つまり、研究における最上位の目標は「学びをたのしむ子を育てること」と「自らを高め続ける子を育てること」の二つです。研究における全ての活動はこの研究主題に向けた手段として実施されています。例えば、子どもに問いを持たせ解決していくことで「学びをたのしむ姿」につながったり、ノートにふり返りを書かせることで自分の学びや成長を自覚し「自らを高め続ける姿」につながったりするわけです。私たちは常に「学びをたのしんでいるかな?」「自らを高め続けているかな?」という視点で子どもたちを見ないといけないし、「学びをたのしむ授業になっているかな?」「自らを高め続ける子を育てているかな?」という視点で授業を振り返らないといけないと思います。

ですが、この二つの姿を具体的に教師がイメージをしておかないと、いざそういう姿が見られたときに価値付けをすることも出来なくなってしまいます。そのために、チェックリストを活用することが一つのヒントになると思います。チェックリストには、学びをたのしむ姿が8つの姿で整理されています。私たちがこの8つの姿を常に意識しておくだけでも、授業は変わってくるのではないのでしょうか。また、自らを高め続ける姿においても、教師が具体的なイメージを持つておくことが大切だと思います。

研究の成果は子どもたちの姿です。どんな子どもたちを育てる研究なのかを今一度念頭において研究を進めて行ければと思います。

～おすすめの本の紹介～

『教室マルトリートメント』

川上 康則

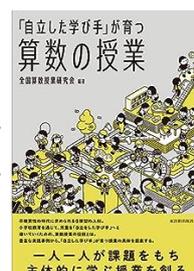
マルトリートメントとは「不適切な関わり」という意味の言葉です。教室における不適切な指導が、子どもたちにどのような影響を及ぼすのか。なぜ不適切な指導が起きてしまうのか、筆者が自分の経験をもとに綴っている本です。読みながらドキッとさせられる内容もありました。子どもとの関わりや指導について振り返るきっかけになる1冊だと思います。



『「自立した学び手」が育つ算数の授業』

全国算数授業研究会

研究主題の「自らを高め続ける姿」につながるのではないかと思います購入した本です。全国の算数の実践家の皆さんが、「自立した学び手」を育てるためにはどのような視点で授業を組み立てて行くのかを書いています。たくさんの考えに触れることができる本なので、自分にあった考え方をを見つけることもできると思います。授業スタイルを見直すきっかけになる1冊です。



ご要望あればお貸しします！読んでみたいという方は廣田まで！